

以下の翻訳は情報目的のみで提供されます。本翻訳版と英語の最終更新版との間に差異、不一致、矛盾が存在する場合（翻訳の遅れによる場合を含む）、英語版が優先します。

# AWS CodeBuildサービスレベルアグリーメント

最終更新：2022年5月5日

本AWS CodeBuildサービスレベルアグリーメント（「本SLA」）は、AWS CodeBuildの利用に適用される方針であり、AWS CodeBuildを利用する各アカウントに個別に適用される。本SLAの契約条件と、AWSカスタマーアグリーメントまたは利用者による当社のサービスの利用に適用される当社と利用者との間の他の契約（「本件契約」）の契約条件の間に齟齬がある場合は、かかる齟齬の範囲についてのみ、本SLAの契約条件が適用される。本SLAにおいて使用する用語（英文では大文字で始まるもの）のうち、本SLAで定義されていないものは、本件契約で定められた意味を有するものとする。

## サービスコミットメント

AWSは、AWS CodeBuildを、すべての毎月の請求期間において、各AWSリージョンの月間稼働率が99.9%以上で利用可能にするため、商業上合理的な努力を行う（「サービスコミットメント」）。AWS CodeBuildがサービスコミットメントを満たさない場合、利用者は以下のとおりサービスクレジットを受け取ることができる。

## サービスクレジット

サービスクレジットは、所定のAWSリージョンの月間稼働率が以下の表に明記されている範囲に該当する月次請求期間について、AWS CodeBuildに対し利用者が支払った料金の定率として計算される。

月間稼働率	サービスクレジット率
99.0%以上、99.9%未満	10%
99.0%未満	25%
95.0%未満	100%

サービスクレジットは、AWS CodeBuildについて今後請求される支払いに対してのみ適用される。当社はその裁量において、利用不可状態が発生した請求期間の支払いの際に利用者が使用したクレジットカードに対して、サービスクレジットを発行することができる。サービスクレジットは、利用者に対し、AWSから返金その他の支払いを受ける権利を与えるものではない。

サービスクレジットは、該当する月次請求期間の当該クレジット金額が1米ドル（\$1 USD）を超える場合のみ適用され、発行される。サービスクレジットは譲渡できず、また他のアカウントに充当することはできない。本件契約に別段の規定がない限り、AWS

CodeBuildの提供において、当社による利用不可状態、パフォーマンスの不実行、その他不履行が生じた場合、利用者の唯一かつ排他的な救済は、本SLAの契約条件に従いサービスクレジット（該当する場合）を受け取ることである。

## クレジットの請求および支払手続

サービスクレジットを受け取るには、AWSサポートセンターでケースを作成することにより、請求（リクエスト）を提出する必要がある。対象となるには、インシデント発生後、2回目の請求期間の末日までに、以下の情報を添えたクレジットのリクエストが当社に受領されなければならない。

- |   |        |
|---|--------|
| (i) 件名に「SLA Request (SLAクレジットリクエスト)」という文言を入れること   | Credit |
| (ii) 利用者がサービスクレジットを請求する対象の請求期間およびAWSリージョン、当該請求期間における当該AWSリージョンの所定の月間稼働率、当該請求期間を通して当該AWSリージョンの可用性99.9%未満だった各5分間のインターバルの具体的な日時および可用性の情報 |        |
| (iii) 利用者が主張する停止のエラーを記録するリクエストログ（これらのログ内の機密情報または機微性の高い情報は削除するかアスタリスク (*) で置き換えること）  |        |

かかるクレジットリクエストに関する月間稼働率を当社が確認し、サービスコミットメント未満であった場合、当社は、クレジットリクエストが行われた月の翌請求期間内に利用者にサービスクレジットを発行する。上記要件を満たすクレジットリクエストおよびその他の情報を提供しなかった場合、利用者はサービスクレジットを受け取る権利を失う。

## AWS CodeBuild SLA例外事由

サービスコミットメントは、以下の場合によるAWS

CodeBuildの利用不可状態、停止もしくは終了、またはその他の問題にも適用されない。（以下、総称して「AWS CodeBuild SLA例外事由」という）(i) 不可抗力事由またはAWS

CodeBuildの責任分界点を超えるインターネットアクセスもしくは関連する問題を含む、当社の合理的支配の及ばない要因に起因する場合、(ii)

利用者の任意による行為もしくは不作為（プロビジョニングされたキャパシティのスケーリング、セキュリティグループの構成ミス、VPC構成もしくは認証情報設定の誤設

- 定、暗号化キーの無効化もしくは暗号化キーのアクセス不能化など) に起因する場合、  
(iii) AWSサイトのAWS CodeBuild  
ユーザーガイドに記載されたベストプラクティスに従っていないことに起因する場合、  
(iv) 利用者の装置、ソフトウェアもしくはその他のテクノロジーに起因する場合、または、  
(v) 本件契約に従った、AWS CodeBuildを利用する利用者の権利の停止もしくは終了に起因する場合。AWS CodeBuild

当社の月間稼働率の計算に明示的に使用される要因以外の要因が可用性に影響を与えて いる場合には、当社はその裁量において、かかる要因を考慮してサービスクレジットを 発行することができる。

## 定義

- 「サービスクレジット」とは、対象となるアカウントにクレジットされる、上記 の規定により計算されたドル建てのクレジットをいう。
- 所定のAWSリージョンの「月間稼働率」は、月次請求期間におけるすべての5分 間インターバルの可用性を平均して計算する。月間稼働率の測定では、AWS CodeBuild SLA例外事由に直接または間接的に起因するダウンタイムを除外する。
- 「可用性」は、5分間のインターバルごとに、このインターバル中にエラーが発 生することなく開始されたりクエストの割合として、計算する。所定の5分間の インターバル中にBuildsまたはAPIを呼び出さなかった場合、そのインターバル は100%利用可能であると想定する。
- 「リクエスト」とは、AWS APIを直接コールすることで、またはサポート対象のイベントソース (CloudWa tch Events、AWS Management Console、CodeBuildのJenkinsプラグイン、CodePipeline、Webhooksなど) に より発動して、顧客のプロジェクト定義に基づきビルドプロセスを開始するため にAWS CodeBuildを呼び出すことをいう。
- 「エラー」とは、HTTPステータスコード「500」(内部障害) または「503」( サービス利用不可) が表示された「障害」終端状態で終了するリクエストをいう 。